

第4回「Let's 和ごはんプロジェクト見直しに関する懇談会」概要

日時：令和7年7月31日（木）13:30～15:30

場所：農林水産省 第2特別会議室

1 取組事例発表

3者からそれぞれ以下のテーマで取組事例を発表。

- 「味覚の一週間」実行委員会 瀬古委員長「味覚の一週間の取組」
- 絵本でSDGs推進協会 朝日代表理事「絵本を活用した和食の普及について」
- 同志社女子大学 今井教授「和食とSDGsについて」

2 食文化の担い手へのアプローチの強化などについて

- 幼少期の経験は強く印象に残る。イベントにとどまらず、学校での学習の中で「味覚の授業」といったものを取り入れられると良いのではないか。
- 親子が参加する食育教室の際に、和食絵本とクッキングの時間を両方実施できれば、参加者は楽しみながら、和食を学べるのではないか。
- 子どもたちの食について、ファーストフードなどに流れがちな現状がある。伝統的な食文化である「おせち」を含め、子どもたちに教えていける場が設けられると良いのではないか。
- 届けたい相手のことを視野に入れながら、何を届け、どのように届けていくかを考えていくことが重要。和食を伝えていく場、空間、物語など、環境的な支援を行っていくことにも意味があるのではないか。
- 「和食は健康に良い」、「和食は環境に対する負荷が少ない」といったことを、エビデンスをもとにしっかりと議論する土俵に上げていくことは重要。
- 現在開催中の大阪・関西万博で行われている様々な芸術的なアプローチや実体験のアプローチは参考になる。一つではなく様々なアプローチで和食を伝えていく手段を用意することが重要ではないか。
- 一時期、炭水化物を抜くダイエットが流行り、米などの炭水化物を制限するということがあったが、バランスの取れた食事を心がけ、適度な炭水化物の摂取が重要であることを伝えていく必要ではないか。
- 子どもの時から和食や日本料理に親しみを持たせることが重要ではないか。また、和食の良さを論理的に解説し、深掘りしていく取組は大変興味深く感じた。
- 子どもが興味を持つきっかけをどれだけ発信していけるか。色々な手段・手法を使って教育していくことが重要ではないか。

3 その他

- 現在実施している「Let' s ! 和ごはんプロジェクト」では、農林水産省がプロジェクトメンバーを募集し活動しているが、新プロジェクトではメンバーにどのような取組を期待しているか整理しておくことも重要。
- 和食の価値を持続的に発展させる方策として、文化や観光も含めた「食文化産業」という新たな視点を導入し、関係省庁と連携しながら、従来の農林水産分野の枠を超えた産業政策的なアプローチを検討していくことも重要ではないか。

(以上)